ちいさな証

本当に価値あることの為に

津田正明
スイス日本語福音キリスト教会会員

クリスチャンになって2年と少しになる。教会に行ってCSで学んだり、礼拝に参加して聖書を開いてメッセージを聴くという意味では、1歳から教会に通っているが、自分が本当の意味で神様に信頼してお委ねして歩み始めたのが2年前という意味である。

それは単純に洗礼や信仰告白をしたという意味ではなく、日曜日以外も日々神様と共に歩む(日曜日以外はノンクリスチャンと変わらない生活をするのをパートタイムクリスチャンという)ようになり、生活の、行動の、言動の、信念の中心が神様になったということである。それはルールで自分を縛り上げているわけではない。お金、名誉、世間体、物質的自己充足、心理的自己充足といったものがかつての行動、思考の原点となっていたのが、神様になったわけだが、かつての自分と今の自分との間での葛藤があり、行ったり来たりしては祈る日々であるが、それは救われている証拠だというメッセージを聞いて安心したのも2年前である。

神様に仕える喜びを知ってからは、より聖書を理解し、御言葉を蓄えて、用いられやすいものとして備えるようになった。神様のことをもっと知りたい、愛したいというのももちろん大きな動機である。今は毎日午前中や移動中に、中川健一牧師のメッセージを２つ３つ聞いて、聖書の理解を深め、御言葉を蓄えている。

かつての自分を思い返してみると、自分の人生のフレーバーの様な感覚で、選ぶライフスタイルといった感じでクリスチャンをしていた様に思う。つまり、自分の物語に神様を、聖書の御言葉を自分の都合で取捨選択し、都合の悪いところは受け流していた様に思う。本来キリストの内に歩むと決めたならば、アダムから始まる聖書の時系列に天に携挙されるのを待つクリスチャンとして、自らの物語が組み込まれるのに、自らの矮小な世界観に神様の物語である聖書の壮大な世界観、歴史観を取り込んだ気になって、聖書あーだこーだと言っていた。

御言葉はその前後の文脈を読まないと、誰に対しての御言葉なのか判断できないのに、勝手に切り出して適用し、これが聖書だという様に論じていたのだから、赤面ものである。そしてクリスチャンだと言いながら、伝道をする気がなかった。今となっては伝道しているのだが、今思うことは、信仰に確信がないと伝道はできないと思う。

例えば、よく知られていないが安全な保険会社のコースに、保険料が無料で、全ての事故病気に対し、金額の上限なく最高の医療対応を受けられるという保険をコッソリ教えてもらったとすれば、自分の身内や大事な友人に教えないでいるだろうか？

本当の恵みの素晴らしさを知っていれば、伝道のモチベーションは自然と湧いてくるものだ。かつて今日何を着るか、誰と何を食べるか、どのテレビを見るかなどと考えていたが、クリスチャンとなった今は天に本籍があって、地上では寄留者であるから、完全に人生観が違う。本当に価値あることの為に歩むことができる様、日々祈り、献身の喜びの内を歩む日々である。

Speicher / Appenzellerland